

オルガン・1ドルコンサート atHome

－ 9月9日配信 プログラム♪ －



三上郁代 Ikuyo MIKAMI

東京藝術大学オルガン専攻卒業、同大学院修士課程修了。卒業時同声会賞受賞。渡仏シトゥールズ及びカン地方音楽院で学び、オルガンを満場一致の成績で修了、チェンバロ、通奏低音のディプロマ取得。第9回M.タリヴェルディエフ国際オルガンコンクールにて、コンクール史上初めて第一位とタリヴェルディエフ作品最優秀演奏特別賞を同時受賞。第12回A.マルシャル国際オルガンコンクール優勝、Giuseppe Englert Memorial Prize 受賞。2018年度上期野村財団奨学生。これまでにオルガンを大塚直哉、秀村知子、今井奈緒子、廣江理枝、W.ヤンセン、M.ブヴァール、E.ル・プラドの各氏に師事。日本以外にもフランス、オランダ、チェコ、ラトビアで演奏会を行い、また通奏低音奏者としてもコンサートに参加している。横浜みなとみらいホール ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム第18期生。

◆ F. メンデルスゾーン: オルガン・ソナタ 第4番 より 第1楽章

Felix Mendelssohn (1809-1847) : 1st Movement from Organ Sonata No. 4
in B-flat Major, Op. 65

フェリックス・メンデルスゾーンはピアノやオーケストラの作品が有名ですが、本格的なオルガン指導を受け、優れたオルガニストでもありました。彼はイギリスの出版社からの依頼を受け、1844年から45年にかけて《6つのオルガン・ソナタ》を作曲し出版しました。第4番は全4楽章から成り、第1楽章は2つの対照的なテーマが別々に現れ、後半でそれらが組み合わせられます。

◆ C. トウルヌミール: 即興的小ラプソディー

Charles Tournemire (1870-1939) : Petite rapsodie improvisée

フランスのオルガニスト、シャルル・トウルヌミールは1930年から31年にパリのサント＝クロチルド教会で即興演奏を録音しました。その録音をモーリス・デュリュフレ(1902-1986)が採譜し、1958年に《5つの即興曲》として出版しました。〈即興的小ラプソディー〉はその1曲目であり、軽やかで短いながらも色彩豊かな作品となっています。

◆ J. ブラームス: 我が心は喜びに満ちて

Johannes Brahms (1833-1897) : Herzlich tut mich erfreuen, Op. 122 No. 4

ヨハネス・ブラームスは亡くなる前年の1896年に《11のコラール前奏曲》を作曲しました。この年には親しい友人であったクララ・シューマン(1819-1896)が亡くなり、それが作曲の契機の1つと言われています。この曲集はブラームスの遺作であり1902年に出版されました。第4曲である〈わが心は喜びに満ちて〉は緩やかな曲調であり、あたたかさを感じる美しい作品です。